



最初にお読みください

CentreCOM® GS900M V2シリーズ リリースノート

この度は、CentreCOM GS900M V2シリーズ (CentreCOM GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2。以下、特に記載がないかぎり、「本製品」と表記します)をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.1.1

2 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.1.0 から 2.1.1 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

2.1 EPSR (トランジットノード) 有効化時の動作

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「EPSRアウェア」

EPSR (トランジットノード) を有効化するときにリング接続ポートが両方ともリンクアップしている場合の動作 (各種状態の設定) を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.1.0 まで	バージョン 2.1.1 から
EPSR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.1.0 から 2.1.1 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 ファン回転数と内部温度の検出精度を改善しました。
- 3.2 SNMP 経由でポートの ifLinkUpDownTrapEnable 値を変更した場合、別ポートのリンクトラップ設定が変更されたり、別ポートの ifLinkUpDownTrapEnable 値が変更されたりすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.3 ポートセキュリティが有効なポートに対して、ACTIVATE SCRIPT コマンドを使用してスクリプトによる設定を行うとリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 SNMP 有効時、SNMP エージェントに対するアクセスのタイミングによって、ケーブルが接続されていないポートでリンクアップ・ダウンが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 本製品を EPSR のトランジットノードとして動作させる場合、本製品の再起動時に EPSR リング上で瞬間的なループが発生することがありましたが、これを修正しました。

- 3.6 Jumbo フレームを転送しても、SHOW SWITCH PORT COUNTER で表示される Transmit - UnicastPkts と SHOW INTERFACE COUNTER で表示される ifOutUcastPkts カウントがカウントアップしませんでしたが、これを修正しました。
- 3.7 ループガード (LDF 検出) が有効なポートに 10M スイッチを接続した場合、10M スイッチ上のループを検出できないことがありました。これを修正しました。
- 3.8 Multi-Suplicant モードの MAC ベース認証ポートにおいて、Supplicant からのパケットが途絶えた後も該当 Supplicant の情報を削除せず、RADUIS サーバーに Access-Request パケットを送信し続けていました。これを修正しました。
- 3.9 設定コマンドの実行順序により、Web 認証用の DHCP サーバーが動作しないことがありました。これを修正しました。
- 3.10 エコトリガー (LEDOFF モード) の終了時刻後に対象ポートがリンクダウンすることがありました。これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.1.1 には、以下の制限事項があります。

4.1 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

4.2 RADIUS サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。

4.3 IP

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

4.4 スイッチング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MH AUTO、10MFAUTO、100MH AUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート (SFP ポート) に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

- (GS908M V2 のみ) SFP ポートで 1000BASE-T の SFP を使用しているとき、SFP ポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせても、対向機器のポートがリンクダウンしません。
- (GS916M V2/GS924M V2 のみ) AT-SPFX/15 による 100Mbps 光ポート同士の接続において、一方の機器を再起動すると、もう一方の機器で SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される Errors (エラーを含んでいるために破棄された受信パケット数) カウンターが、不正にカウントされることがあります。
- ポート番号が最大のスイッチポートにおいて、イングレスフィルタリングが動作しません。

4.5 ポートトランкиング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

トランクグループを以下のいずれかの条件で複数作成し、512 個以上の MAC アドレスが使用される通信が発生している状態で、トランクポートの追加と削除を繰り返し実施すると、本製品がリブートすることがあります。

- トランクグループの所属ポートに 512 個以上のスイッチフィルターが登録されている
- トランクポートの通信モードがポート本来の通信モードと異なる設定になっている

4.6 IGMP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリーポートコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。
なお、EPSR アウェアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEmCAST オプションで、リンクトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエンタリーを FDB から削除する設定が可能です。
- ADD IGMP Snooping MCGROUP コマンドでマルチキャストグループアドレスを手動登録している場合、SET IGMP Snooping MCGROUP コマンドの ROUTERPORT パラメーターで該当グループアドレスのルーターポートを変更しないでください。変更するとシステムがリブートします。

4.7 IGMP Snooping/MLD Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

 「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」

ポートトランкиングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。
ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。

4.8 スパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリーポートコル」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

4.9 Web GUI

 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版)のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時にを行うことができますが、個別に変更するようにしてください。

グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

4.10 エコトリガー

 「コマンドリファレンス」 / 「省エネ機能」

- エコトリガー (SLEEP モード) によってスタンバイ状態に移行するとき、コンソール上に「[bcm]」という不要な文字列が表示されます。表示上の問題で動作には影響ありません。
- エコトリガー (SLEEP モード) を含む設定で起動した場合、システム起動直後で一度もスタンバイ状態に移行していないにも関わらず、「power save mode (Sleep) ended」というログが出力されます。

5 マニュアルの補足・誤記訂正

最新マニュアル（取扱説明書、コマンドリファレンス）の補足事項および誤記訂正です。

5.1 オートファンコントロール (GS916M V2/GS924M V2)

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、GS916M V2/GS924M V2 のファンを動作時温度（外気温度）に応じて自動的に回転・停止させるオートファンコントロールに対応しました。

ファームウェアバージョン 2.1.0 以降のファームウェア搭載時、GS916M V2/GS924M V2 のファンは自動的に以下のような動作をします。

電源投入時	回転
ファームウェアの読み込み完了時	停止
内部温度が監視しきい値を上回ったとき	回転
内部温度が監視しきい値を下回ったとき	停止

なお、ファンが回転を開始する外気温度の目安は以下のとおりです。

条件	GS916M V2	GS924M V2
全標準ポート使用時 (100%負荷)	36°C	30°C
全標準ポート + SFP ポート使用時 (100%負荷)	35°C	30°C

ファンの回転・停止時には、SNMP トラップ、ログメッセージが出力されます。

5.2 SNMP : NEWADDRESS トрап

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスの ADD/CREATE/DELETE SNMP COMMUNITY コマンド、DISABLE/ENABLE/SHOW SNMP TRAP コマンドのページには、NEWADDRESS トрапの送出条件が「フォワーディングデータベース (FDB) に MAC アドレスが学習されたとき」と記載されていますが、正しくは「フォワーディングデータベース (FDB) にエントリー種別が Dynamic な MAC アドレス (ダイナミックエントリー) が学習されたとき」です。ポートセキュリティーの Limited モード、Secure モードでは学習したアドレスをスタティックエントリーとして扱うため、アドレスを学習しても NEWADDRESS トрапは送出されません。

5.3 ループガード：タグ付きポートへの LDF 検出有効設定

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、ENABLE SWITCH LOOPDETECTION コマンドで、タグ付きポートに対して LDF 検出機能を有効に設定できるようになりました。ただし、LDF の送出と検出はタグなしパケットで行われますので、タグ付きポートで LDF 検出機能を有効にする場合は、タグなしポートとしても VLAN に所属させるようにしてください。

5.4 SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンド

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスには、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される下記統計カウンターの説明として「未サポート。常に 0 を表示」と記載されていますが、「常に 0 を表示」という記述は誤りです。ただし、これらの統計カウンター自体は、コマンドリファレンスの記述どおり未サポートです。

- Transmit - Discards
- Transmit - PauseFrames
- AlignmentErrors
- ExcessiveCollisions

5.5 DHCP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

コマンドリファレンス記載の「登録できるクライアントの数」に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

ポートごとに、最大 5 クライアントまで登録でき、装置全体では最大 260 クライアントまで登録できます。

正：

ポートごとに、最大 5 クライアントまで登録できます。装置全体では、GS908M V2 は最大 40 クライアント、GS916M V2 は最大 75 クライアント、GS924M V2 は最大 115 クライアントまで登録できます。

6 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（パラメーター）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
RESET PORTAUTH PORT
LOAD METHOD=TFTP FILE=filename SERVER=ipaddr BOOT
SET IGMPSSNOOPING HOSTSTATUS
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
SHOW DHCPSSNOOPING NVS
SHOW DHCPSSNOOPING HWFILTER
```

7 最新マニュアルについて

最新の取扱説明書「CentreCOM GS900M V2 シリーズ 取扱説明書」(613-001184 Rev.B)、コマンドリファレンス「CentreCOM GS900M V2 シリーズ コマンドリファレンス 2.1.0」(613-001180 Rev.C)は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、これらの最新マニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>